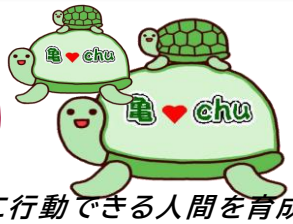
令和８年11月６日発行

亀戸中だより



亀中ホームページクリック

本校教育目標 「思いやりの心をもち、主体的に行動できる人間を育成する」
「探究」 「敬愛」 「挑戦」

一人一人が、かがやく「史上最高の合唱コンクール」

～絆と情熱、そして歌声で創り上げた「奇跡の空間」～

校長　三浦　秀樹

先日、本校体育館にて２日間にわたる「合唱コンクール」を開催いたしました。 各クラスがもてるすべての力を注ぎ込んだ１日目。その大きな熱量と感動のバトンを受け取って迎えた２日目。　会場に満ちていたのは、生徒たちがこれまで流してきた汗、積み重ねてきた努力のすべてでした。

体育館を揺らしたあの重厚で美しいハーモニーは、間違いなく亀戸中学校の歴史に深く刻まれる「史上最高の一日」となりました。

合唱コンクールは、単に歌の出来栄えや順位を競い合うだけの場ではありません。時に打ちのめされ、葛藤し、それでも仲間と肩を並べて同じ目標に向かって突き進むプロセスそのものに、かけがえのない価値があります。

私たちが今回の行事を通じて目撃したのは、生徒たちが手に入れた「３つの宝物」でした。

1. 主体的な努力が生み出した「確かな自信」

「どうすればもっと響くか」「自分にできる役割は何か」。教員の指示を待つのではなく、生徒一人ひとりが自ら考え、行動を起こす姿がそこにはありました。手探りで作り上げたハーモニーは、聴く者の心を揺さぶる大きな力となり、生徒たちの胸に「自分たちはやり遂げた」という一生ものの自信を植え付けました。

2. 思いやりの心が紡いだ「絆の音色」

声の大きさ等に個人差があっても、全員の声が大切な音色です。仲間の声にそっと耳を傾け、足りないところを補い合い、支え合う――。その温かな思いやりが音に乗った瞬間、歌声は単なるメロディを超え、深く尊い「絆」の音色へと変化しました。

3. 互いを讃え合う「誇り高き学校文化」

ステージ上で全力を出し切った歌い手はもちろん、客席から他クラスの挑戦に惜しみない拍手を送り続けた聴き手の姿勢。その双方が互いを尊重し合い、会場全体で一つの感動的な空間をつり上げたことこそ、亀戸中学校が誇るべき最高の伝統であり「学校文化」です。

全クラスの発表が終わった瞬間の、あの晴れやかな空気を忘れることができません。 達成感に溢れた弾けるような笑顔、仲間と目を合わせて喜びを分かち合う誇らしげな表情。体育館のステージで息を吹き込まれた一人ひとりの輝きは、まさに生徒全員が主役となった瞬間でした。

今回の合唱コンクールで育まれた「主体的に挑む強さ」「仲間を愛おしむ心」「高め合う伝統」は、これから先、生徒たちがどんな壁にぶつかっても乗り越えていくための道しるべとなるはずです。

心温まる拍手と拍声で会場を包み込み、生徒たちの背中を押してくださった保護者の皆さま、地域の皆さまに、深く感謝申し上げます。これからも、まぶしく成長し続ける亀戸中学校の生徒たちを、温かく見守っていただけますと幸いです。











